



富士通株式会社

会社名	富士通株式会社
本社所在地	東京都港区東新橋1-5-2
設立	1935年6月20日
資本金	3246億2500万円
URL	jp.fujitsu.com
業種	情報通信業
事業概要	日本を代表する総合ICT企業。多彩なソリューションをグローバルに展開している。

導入事例 **actifio**

高信頼クラウド「Private Hosted LCP」のバックアップ／DRサービスにActifioを採用 顧客のビジネスを守る安全・安心な環境を実現

導入までの課題

富士通の基幹システム向けクラウド「Private Hosted LCP」では、新しいバックアップ／DRサービスの構築に着手。これに伴い大量の仮想サーバを確実に保存・転送できる環境が求められた。

導入後の効果

Actifio CDSを導入することで、顧客システムの効率的なバックアップ／リモートコピーを実現。今後はオンプレミス環境向けに、Actifio Skyを使ったDRサービスの提供も検討中。

エンタープライズ向けクラウド 「Private Hosted LCP」を展開

日本を代表する総合ICT企業として、高品質なハード／ソフトや多彩なソリューションを提供する富士通。近年需要が高まっているクラウド分野においても、多様なビジネスニーズに応えるべく、充実したサービスを展開している。その一つが、エンタープライズ領域をターゲットとした高信頼IaaSサービス「Fujitsu Cloud IaaS Private Hosted LCP(以下、Private Hosted LCP)」だ。

同社の長友 裕介氏は「お客様の重要な基幹システムに適用されるサービスですから、性能・信頼性の確保には万全を期しています。明石／館林両システムセンターの堅牢なファシリティを活かすと同時に、インフラやネットワークの品質もとことん追求。スピーディなクラウド活用をご支援すべく、ERP／文教／自治体／行政などの業種ソリューション

もご用意しています」と語る。

さらにもう一つの強みとなっているのが、同社が長年にわたり培ってきた高度な運用管理力だ。同社の足立 亮氏は「富士通のアウトソーシングサービスには、既に約20年に及ぶ歴史があります。Private Hosted LCPでも、ここで培われた経験やノウハウを積極的に投入。専任サービスマネージャーによる高品質な運用管理サポートもワンストップでご提供し、安定的なシステム稼動を実現しています」と語る。

バックアップ／DRサービスの インフラにActifioを採用

Private Hosted LCPでは、基本サービスであるVMwareベースの仮想サーバ環境に加えて様々なオプション／連携サービスも提供されている。その中でも顧客企業のビジネスを守る重要なメニューとして位置づけられているのが、「バックアップ／DRオプション」だ。

東日本大震災を契機として、自社の重要なシステムやデータを確実に保全したいとのニーズは増え続けている。同社でもこうした要望に対応すべく、バックアップ／DRオプションの提供を開始。長友氏は「明石／館林センター間でのDRを行えば、万一の大規模自然災害などによるリスクも最小限に抑えることができます」と語る。

とはいえ、バックアップ／DRオプションの提供にあたっては、遠隔地データセンター間でのリモートバックアップをどのようにして行うかが課題となった。足立氏は「Private Hosted LCPはマルチテナントのクラウドサービスなので、バックアップ／DRの制御をお客様単位、もっと言うとお客様の仮想サーバレベル単位で実施できる必要があります。もちろん、バックアップソフトやストレージ製品などを組み合わせて環境を構築することも可能ですが、後々の運用保守に手間が掛かるようでは

困ってしまう。できるだけシンプルに、かつ確実にバックアップ/DRが行える環境を実現したいと考えました」と説明する。

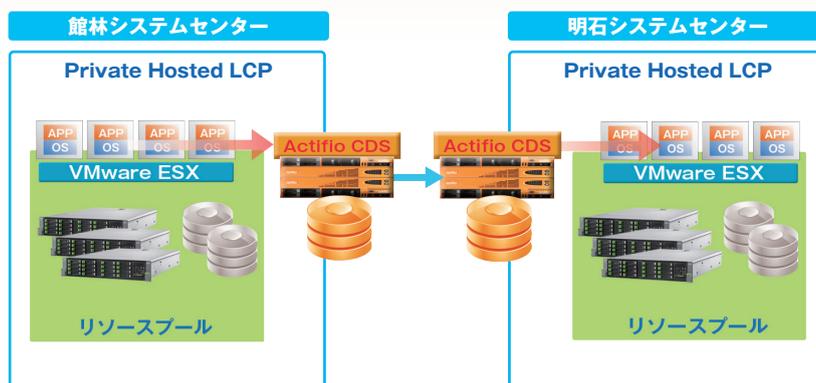
同社では様々なソリューションを候補に挙げ、綿密な比較検討を実施。その結果導入されたのが、Actifioが提供するコピーデータストレージ「Actifio CDS」である。長友氏は採用のポイントを「Actifio CDSはコピーデータとデータ保護に特化したアプライアンス製品なので、我々が求めるバックアップ/DR環境を容易に構築できます。またPrivate Hosted LCPのインフラに採用しているVMwareとの親和性も高く、エンタープライズ向けサービスに欠かせない高いスケーラビリティも備えています」と語る。

同社は信頼性を重んじる企業であるだけに、いくら優れたコンセプトの製品であっても、品質に不安のあるようなものは採用できない。そこで導入にあたっては、品質保証部門も参加して徹底的な検証作業を実施。厳しい要求をクリアできる製品であることを確認した上でサービスに適用している。

現在では明石／館林両センターに1台ずつActifio CDSが設置されており、双方向でのリモートバックアップが行える環境を実現。

「Actifio CDSには高度な重複排除機能が備わっており、バックアップやリモート転送時のデータ容量を大幅に削減することもできます。特に仮想マシンのOS部分などは重複排除が効きやすいので、1/10程度の容量削

■Actifio CDSを使った Cloud DRサービス



Interviewee of this article



富士通株式会社
アウトソーシング事業本部
インテグレーションマネジメント統括部
サービスサポート部長
長友 裕介氏



富士通株式会社
アウトソーシング事業本部
インテグレーションマネジメント統括部
サービスサポート部 マネージャー
足立 亮氏

減効果を見込んでいます」と足立氏。また、長友氏も「お客様のBCPを支えるサービスですから、リストア作業が迅速に行えるのも大きなメリットですね。フルバックアップと差分を組み合わせることでリストアを行う方式と比べて、格段にスピーディに業務復旧が行えます」と続ける。

オンプレミス環境向けの 新DRサービスも視野に

Actifio CDSの導入効果を高く評価した同社では、今回のバックアップ/DRオプションに続いて、企業内で稼動するオンプレミス環境向けの新たなDRサービスも企画中だ。ここでの活用を検討されているのが、Actifioのもう一つのソリューション「Actifio Sky」である。ハードウェア製品であるActifio CDSに対し、Actifio SKYはVMware

対応のバーチャルアプライアンス製品となっている。既存のVMware環境に導入することで、Actifio CDSと同様の機能を実現できるのだ。

「明石／館林センターには既にActifio CDSが導入されていますから、お客様の自社システムにActifio Skyをご導入頂くだけで簡単にDR環境が構築できます。BCP強化やICTコスト削減を図る上で大きな効果が期待できますので、できるだけ早くサービスをご提供していきたい」と足立氏は語る。

「今後も高信頼なインフラに加えて、各種のソリューションやマネジメントなどの上位サービスも含めた、富士通ならではの強みを活かしたクラウドをご提供していきたい」と抱負を語る長友氏。Actifioのソリューションも、こうした同社の取り組みをしっかりと支えていくのである。